

## 分野:器官系統病態学

主科目 副科目	視覚病態学 Visual science	DM_1437	区分	選択必修	授業形態	演習 (講義・実習含む)
------------	-------------------------	---------	----	------	------	-----------------

担当	教授	准教授	講師	助教	客員教授・その他
板橋	◎溝田 淳	三村 達哉 渡邊 恵美子 (病院准教授) 林 孝雄 (兼担准教授)		太根 ゆさ 水野 嘉信	金子 博行 (非常勤講師)
-					
-					

	視覚病態学Ⅰ (1年次)				視覚病態学Ⅱ (2年次)				視覚病態学Ⅲ (3年次)			
	単位	4単位	配当年次	1年・通年	単位	4単位	配当年次	2年・通年	単位	4単位	配当年次	3年・通年
概要	<p>視覚における網膜の構造と機能に関する講義を行いまたその機能に関する演習を行う。</p> <p>実習に関しては網膜の生理学的な反応に関する実習を実験動物を用いて行い、主に杆体で構成される動物の網膜と、錐体と杆体が混在するようなヒトの網膜との反応の差に関して検討する。</p>				<p>視覚における光学的な機能と調節に関する講義を行い、模型眼における屈折とその収差に関する演習を行う。</p> <p>実習に関しては通常眼鏡で矯正できるような低次の収差ばかりでなく、破面収差計を用い、高次収差を測定し高次収差の視機能あるいは視力に与える影響について検討し、より収差の少なくなるような矯正方法に関して検討する。</p>				<p>視覚における高次中枢の働きに関して、視覚によるものの認識に関して講義を行い、中枢における錯視に関する演習を行う。</p> <p>実習においては、フラッシュ刺激やパターン刺激に対する、視中枢の反応を脳波、ファンクショナルMRI、近赤外スペクトロスコピーなどにより正常者において評価すると同時に病的な状態に関する変化を検討する。</p>			
到達目標	<p>視覚生理の基礎を理解し、その機能における評価法に関してヒトや実験動物において評価することができる。</p>				<p>ヒトの眼球の光学的な機構に関する理解とともにその収差に関する理解をすること。及びその収差の原因となるような疾患の理解をする。</p>				<p>視覚における中枢の関与に関する理解、及びその機能の他覚的測定法の理解。</p>			
事前事後学修	<p>視覚の基礎。 1回の授業に対して、予習・復習それぞれ30分程度が必要である。</p>				<p>光学の基礎。 1回の授業に対して、予習・復習それぞれ30分程度が必要である。</p>				<p>中枢神経の基礎。 1回の授業に対して、予習・復習それぞれ30分程度が必要である。</p>			
評価方法	<p>受講態度 20% (発表、課題提出、リアクションペーパー) レポート 50% 口頭試問 30%</p>				<p>受講態度 20% (発表、課題提出、リアクションペーパー) レポート 80%</p>				<p>受講態度 20% (発表、課題提出、リアクションペーパー) レポート 60% 口頭試問 20%</p>			

## ■主な演習(講義・実習含む)

	視覚病態学Ⅰ (1年次)	視覚病態学Ⅱ (2年次)	視覚病態学Ⅲ (3年次)
板橋	水 曜日 17 : 00 ~ 19 : 00 網膜生理	水 曜日 17 : 00 ~ 19 : 00 眼球光学	月 曜日 17 : 00 ~ 19 : 00 視中枢
	木 曜日 16 : 00 ~ 17 : 00 網膜電図	木 曜日 17 : 00 ~ 19 : 00 眼球収差	金 曜日 18 : 00 ~ 19 : 00 誘発電位
	金 曜日 18 : 00 ~ 20 : 00 視覚生理	火 曜日 18 : 00 ~ 20 : 00 屈折異常	火 曜日 16 : 00 ~ 17 : 00 錯視
-	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :
	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :
	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :
-	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :
	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :
	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :

## 教科書・参考書

Physiology of the Eye、眼科学

## その他履修上の注意事項

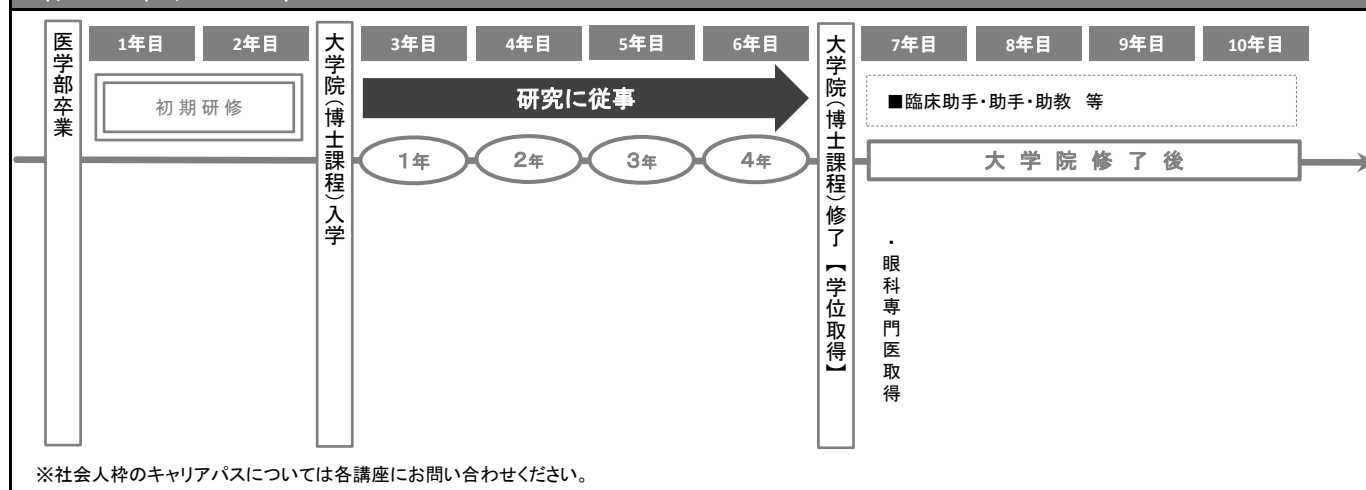
大学院の期間中に外部の施設にての研究などの可能性あり。また研究を主体とするために専門医取得に際して臨床経験として認められない機関が存在する可能性あり。  
試験やレポート等に対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。  
この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

関連科目	副科目	耳鼻咽喉科学、形成・口腔顎顔面外科学
	共通科目	形成・口腔顎顔面外科学

## 関連する専門医資格

眼科専門医

## キャリアパス(モデルコース)



※社会人枠のキャリアパスについては各講座にお問い合わせください。